

## 「日頃の教育に対する工夫、及び今後の教育への抱負」

機械・システム工学科

機械工学コース 岡田将人

令和6年度の機械工学コースの優秀教員に選出いただきました。はじめに本制度に御協力いただいた学生の皆さん、教職員の皆様に御礼申し上げます。2年前に初めて選出いただき、今回で3回目となりました。大変光栄です。これまでもここで記載しましたが、学生の皆さんが「今日も昨日より成長できた」毎日となるように、自身なりに教育研究に取り組んできたつもりです。この選出が、その思いと取り組みに対する結果であれば心底嬉しいところですが、具体的に何が良かった点であるのか…まだ私の中で解が見つかっていません。とりあえず、わからないことは当事者に聞くのが最も確実と思いい、遠慮なく答えてくれそうな学生さん数人に、今回選出された要因を予想してもらいました。その回答から、(評価いただいたと思われる) 私なりの教育に対する工夫と、その効果を考察してみます。

### 【日頃の教育に対する工夫】

- 「動画を活用したり、ノートを取りながら進めたりする授業形態がわかりやすかった」

講義(座学)で「動画」と「ノート」の2つがキーポイントとなったようです。確かに、授業アンケートでも毎年、この2つの心掛けが好評でした。

私の専攻分野は精密加工のため、講義では、素材から製品に形状を変化させる手法を扱うことが多く、これをわかりやすく伝えるには、動画で過程を見てもらうことが最も効果的との思いで、動画を活用しています。教室にプロジェクトを準備いただいている賜物です。

私の座学の授業では、板書をノートに書きとるように推奨しています。そうしているからには、書き取る時間を十分に確保することが必要です。そのため、私が板書する時間を節約するために、板書内容は全てプロジェクトにて投影するようにしています。

- 「連絡事項を早めにまとめて丁寧に出示してくれる」

これは演習科目に対するコメントと予測しています。演習科目(ものづくり型PBL)では、教員が無用な関与をしないように、アドバイスを求められない限り、演習に係ることで学生に話しかけないように心掛けています。その代わりに、演習開始前に、その回の連絡事項や残りのスケジュール確認、レポートやプレゼン資料作成時のアドバイスなどを全員に文書(共有ファイル)で伝えるようにしています。これは、単に、私自身が口頭で的確に伝えられる自信がないための措置でしたが、演習中に見返すこともでき、思いもよらない効果があったのやもしれません。

- 「演習時間に学生を見て回ったり、課外活動に付き合ってくれたりして接しやすい」

演習科目で無用な関与はしませんが、必要なときに遠慮せず話しかけてもらえるように、余談をしたり、製作物を傍から観察したりしているため、そのように感じてくれたのやもしれません。また、製品展示会など学外イベントツアーの企画・引率を担当していることから、身近で接しやすいとっていただけたのかと思います。(昨年同様、これは単に自分が行きたいから…というのは内緒です)

### 【今後の教育への抱負】

私なりの工夫を、学生さんからのコメントに基づいてまとめてみましたが、いずれもありきたりなもののように感じています。最近、「どうすればよいのか?」その解を求め続けること自体が解なのではないかと思えてきました。今後も、学生との縁と専攻分野を楽しみながら、解を求め続けます。